

日 時 令和4年10月6日(木) 午前10:00~11:30
場 所 東久留米市役所501会議室
出席者 河野部会長、金子委員(小田部委員の代理)、栗城委員、時田委員、
吉野委員、渡辺委員、高原副部会長(会議録)、
事務局 杉係長
欠席 内藤委員、小畑委員

○部会内容・・・近況報告から就労及び生活支援について

・作業所では1か月の平均工賃がなかなか月額1万円の壁を越えられない。性格的な課題のある方や発達障害の傾向がある方への支援がうまくできない。

・新規相談に来られる方には生活課題が多い方がおられる。定着支援が切れてしまった方の相談もある。就労に直結しない方の日中活動をどうしたら良いのか。生活困窮からの案件が多い。空気が合わないという課題もあった。

・10代、20代の相談が多い。整理されていない課題が多い。児相と連携することもある。短時間雇用の人の相談はより時間がかかる。「居場所+働き」を探す。

障害者雇用をしたけれど、その後悩まれている企業がある。受け入れを行っている事業所の中には、支援機関の役割を知っていただく取り組みも必要。障害について触れてはいけないのではないか?と置いていっちゃう方もいる。障害特性の理解促進も大切。企業は社員を育ててきたので同じようにやれば良いと思っている。仕事は出来ても対人関係に難しさを抱えているケースもある。もう当分障害者雇用はしたくない、ということになる。支援機関の周知が必要。

・卒後の生活拠点を探す取り組みをしている。児童養護施設、里親の支援を受けている方が1~2割。
卒業後の生活の場として、仕事の内定→グループホームや通勤寮の体験→卒業→引っ越し、という順番になる。課題があって、学校に行き、就職、だが、学校の定着支援は概ね3年。学校の後に支援機関を経由して就職する方もおられる。保護者の方にグループホーム、通勤寮の説明を行っている。

・統合失調症の人は、生活保護を受けている方が多い。単身生活をして入院を繰り返すうち、作業所も行けない位重くなってしまい、生きがいを持てなくなる場合もある。重度の人達が1~2時間でも就労できればと思っている。就労する人には、オープン、クローズの人がいる。障害者に食べるだけでなく生きがいを持てるようになれば良い。

・就労支援室さいわいでは、176名の登録者のうち、20人がグループホームか通勤寮を利用。2名が一人暮らし。定着支援に力を入れているが退職者について今年度5名と多い。今までは1年に1名いるかどうかだった。退職者の中には10年以上働いていた方もおられた。

知的障害に精神疾患のある方が多くなった。精神科に通っているが、自分で症状をDrに伝えることが難しい。

○その他の意見として

- ・今の家族は家庭の機能が低下している。自宅以外にちょっと行ける場所が必要。
- ・センターでは介護者のサポートの一つに知的障害、身体障害のある方に対して日中一時支援とショートステイをやっている。
- ・福祉サービスのみで対応できないニーズがある。めるくまーも固定メンバーが多い。土曜に開けていないのを使って特定の対象の人に使ってもらってはどうかと思った。サービス対象外の方が親子づれで来られる。知的では放デイがあるが、若年精神は行き場所がない。
- ・若い内にサービスを使うと症状など重症化しないのではないか。
- ・特別支援学校では卒業後の生活の場としてグループホーム、通勤寮等の情報提供を行う。
- ・話を聞いて、居場所の問題は住みよいまちづくりにもつながっていると思った。
- ・自己理解、自分と向き合うのは知的と精神で違う。知的の方は、サービスを知って社会に出て行く。
- ・福祉サービス、医療が関わっても解決しない時もある。
- ・失敗して自尊感情が低い人も多いので、まずは受け入れることが大事。
- ・ルールを守れない人を受け入れることは難しい。
- ・練馬には年齢、女性を限定した居場所がある。
- ・働くための基盤として生活の安定など、障害の状況によってもニーズが多岐にわたるが居場所づくりの必要性が高く「住みよいまちづくり部会」と課題共有しても良いのではないか。

予定時間を過ぎたので、次回の日程について話し合い、閉会となる。